

OKIグループの環境への取り組み

OKI環境チャレンジ2030/2050を制定

深刻化する気候変動、社会課題の解決に、より力強く寄与するため、中長期環境ビジョンとして「OKI環境チャレンジ2030/2050」を2019年4月1日に策定しました。OKIグループの総合力を活かし、目標の達成に向けてチャレンジしていきます。

OKIグループは、「環境と事業が融合することで、OKIが生み出す価値を最大化すること」を目指して環境経営を推進しています。「OKI環境チャレンジ2030/2050」はOKIのこうした「環境への取り組みと企業成長の好循環」を、持続可能な開発目標SDGsと結び付けることで、加速させることを狙っています。例えば、長年手掛けてきた防災システムはSDGsの目標13「気候変動に具体的な対策を」や目標11「住み続けられるまちづくりを」につながります。お客様の物流効率の改善に寄与するITSサービスの提供は、温暖化の防止を含むSDGs目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に貢献するものとして位置付けられます。また、商品・サービスを生み出す事業

活動においても、省エネルギーや省資源という環境負荷の低減は、SDGsにもコストダウンにもつながる事業活動としても深く浸透しています。

TCFD提言に賛同

さらにOKIは、2019年5月、気候変動に伴うリスクや機会にどう取り組むかを情報開示するよう求める「気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD*)」提言に賛同表明しました。OKIでは、TCFD提言が焦点とする気候変動にとどまらず、資源や化学物質にも範囲を広げ、今後の環境に関して想定される事象を設定し、その事象がOKIにとってどのようなリスクと機会をもたらすのか、どのように対応すべきかを検討し、将来の財務影響を見据えた実効性の高い施策をグループ全体で進めています。例えば、気候変動の激甚化は工場を操業する上ではリスクであり、防災システムのような商品販売においては機会となります。こうした検討を社長のイニシアチブで推進し、本社の環境専門部門にて事業部門や研究開発部門、調達部門な

どと協議しています。これらの検討結果は経営会議(もしくは経営者)に報告されます。

OKIグループは未来を見据え、環境経営と情報発信を推進してまいります。

※ TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosures): 気候変動に対する企業の対応について、投資家への情報開示の必要性を勧告する提言

OKI環境チャレンジ2030/2050(概要)

1 温暖化防止

ライフサイクルCO₂排出量* 2030年度40%削減
2050年度80%削減(2013年度比)を目指す。



2 SDGs達成への貢献

以下の①②を通じて2030年のSDGsが定める環境負荷の低減効果の目標の達成に貢献する。

- ①幅広い環境課題の解決に資する商品やサービスのイノベーションの創出とソリューションの提供。
- ②事業場を含むサプライチェーンにおける、革新的なモノづくり・コトづくりの実現。



* ライフサイクルCO₂排出量: 調達→事業拠点→物流→お客様による製品使用→使用済み製品の廃棄、の各プロセスにおけるグループ全体のCO₂排出量



「環境への取り組み」の
詳細はこちらから